

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第12号】

発行人 佐野昌男
事務局 長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部
教育実践研究
指導センター内
TEL (026) 232-8106(代表)
FAX (026) 234-5540



同窓会…今後の課題…

同窓会会長 佐野昌男

一 はじめに
この度、矢島直徳前同窓会長の後を受け、昨年の八月第六期の会長に選出されました。もとより、無能無才でこの責任ある職責を全うできるか不安ですが、先輩の皆様、会員の皆様のご支援とご協力をいただき、この会の発展充実に努力する所存です。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

二 かかえる問題

まず、組織充実にかわる問題です。昭和六二年度以前の卒業生の会費納入率がおよそ二十パーセント前後と非常に低いことです。会費未納者の大部分は長野県下で就職の場におられるので、これらの方々が現場を去る前に各支部の役員の方々の力を借りたり、各教育会へ働きかけて、ひとりでも多くの卒業生から会費をいただきたいと思ひます。

次に、予算が非常に厳しい状況にあることです。毎年の運営予算は、新入生の会費で賄って

ますが、今後児童生徒数の減少にともない教員の需要が減り、教育学部の定員が大幅に削減されることです。しかし、卒業生は確実に増え続け、毎年通信費だけでも3〜4万円ずつ増えております。事務局ではできる限り無駄をカットする緊縮財政に努力していますが、今後のくらしい維持していけるか、不安な状況にあります。

最後に、事務局運営を学部の先生方をお願いしておりますが、学部出身の先生方が年々ご退職しており、今後数年の内に運営そのものが本部署事(学部の先生)の減少によりできなくなりますが、何らかの対策を考えていかなければなりません。

三 おわりに

今後、会員の皆様、現職の第一線を去った後、第二の人生を楽しめる会員同士の親睦と母校発展のお手伝いのできる支部組織の充実に願っております。

教育学部のキャンパス環境整備完了

オリンピックに関わる道路拡幅を契機に始まった三年間にわたる環境整備が終了した。左写真は、新西校舎から整備された正門を望む。



第十回同窓会総会報告

信州大学教育学部同窓会の第十回総会は、定例日である平成九年八月十一日(月)午前十時から信州大学教育学部東校舎五階E50四教室において、会員五四名の参加を得て開催された。

北澤 競幹事長の進行のもと、古川玲子副会長の開会宣言、矢島直徳会長の開会挨拶に続いて、議長団に和歌月健人(篠ノ井東小)・藤綱孝子(松ヶ丘小)氏を選出、書記に糟谷房枝(戸隠小)・久保信男(信大)氏を、議事録署名人に小林了治(芋井小)・上条 厚(信大)氏を選任し



矢嶋会長あいさつ

て議事に入り、次のような議案を審議した。
第一号議案

平成八年度事業報告、歳入・歳出決算報告及び財産目録の承認について

中村浩志庶務幹事から資料に基づき平成八年度事業について説明、渡辺時夫会計幹事から資料に基づき平成八年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明。清水厚実監事より会計監査報告があり、拍手により全員一致でこれを承認した。
第二号議案

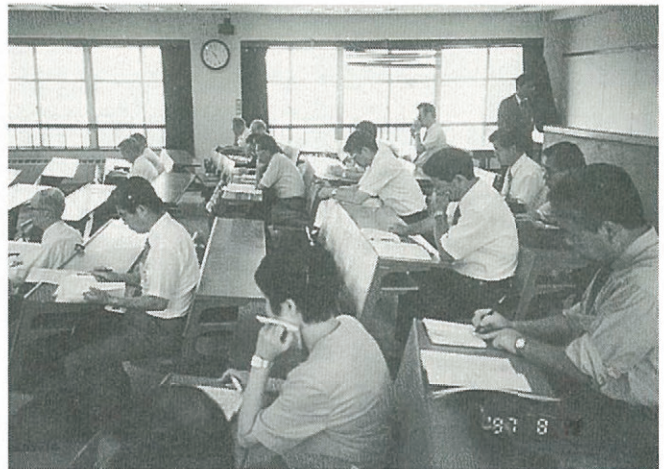
平成九年度事業計画書案及び歳入・歳出予算書案の承認について

中村浩志庶務幹事から資料に基づき平成九年度事業計画書案について説明、渡辺時夫会計幹事から資料に基づき平成九年度歳入・歳出予算書案について説明。審議の結果、原案通り拍手により全員一致でこれを承認した。
第三号議案

役員の改選と顧問推薦について

矢島直徳第五期会長から第六期会長に佐野昌男氏を推薦。第六期会長佐野昌男氏から副会長・理事・監事の推薦並びに幹事の委嘱。これらの件につき、拍手により全員一致でこれを承認した。続いて第五期会長矢島直徳氏から、漆戸邦夫新教育学部長を名誉会長に推薦。全員一致で推薦を承認した。第六期会長佐野昌男氏から、前会長矢島直徳氏を顧問に推薦。全員一致で推薦を承認した。

議事終了の後、来賓及び特別会員の紹介があり、北条舒正繊維学部「千曲会」会長、小川秋實学長、漆戸邦夫教育学部長から祝辞を戴き、古川



教育学部東校舎E504教室での総会参加者

玲子副会長の閉会宣言で総会を終了した。
総会に引き続いて前長野県山岳協会会長田村宣紀氏による「鵬程万里―日中合同チョモランガロ峰登山の記録から―」と題する講演(一般公開)があり、さらに午後には三九名の参加による懇親会が開催された。

ボランティアのお願い

会報発送作業が年々増え、八千通を超えました。封筒詰め等の作業をお手伝いくださる方々、事務局までご一報をお願いします。作業は七月初旬です。

第六期同窓会役員名簿

(平成九年八月〜十一月八日)

名譽会長	漆戸邦夫	顧問	松橋英幸	会長	清水正	副会長	佐野昌男	監事	古川玲子	本部理事	清水厚美	手塚光晴	牧三郎	北澤競	渡辺時夫	中村浩志	上條厚	地区理事	清水寛司	下伊那	義房	諏訪	小池義房	北安曇	内川三郎	松本	立澤孝延	佐久	荻原昌幸	更埴	徳永英夫	飯水	太田秀雄	長野	小林芳久	高野	池田了治	高野	塚田亮	幹事	久保信男	副幹事	村田弘之	庶務担当	直江寛志	会計担当	浅井雅子	会報担当	杉村好弘	事務担当	伴真理子
			倉田稔		矢嶋直徳		島田孝司		丸山恒男		丸山恒男		横田通		野口宗雄		別府桂		上伊那下平		木曾水野		南安曇宮島		塩筑内徳男		上小東川		溝口英樹		下高井藤井		長野和歌月		高野春日		高野春日		高野春日		藤岡孝子		和歌月清		赤羽貞幸		赤羽貞幸				

創立五十周年

卒業生名簿の刊行について

平成十一年は、信州大学が創立して五十周年になります。大学また教育学部では種々記念行事を予定していますが、学部から卒業生名簿の刊行は同窓会へ依頼されました。平成七年同窓会総会で



学部西校舎よりみる
附属小跡地の記念公園

このことが諮られ、本会の事業として刊行が決定されたものです。平成十年一月の理事会で早急に着手することになり、前回（創立四十周年と同窓会の設立記念を併せ平成三年四月に刊行）に準じて「卒業生名簿刊行会」、実務担当の「刊行委員会」を組織し、平成十年三月、刊行会長の佐野同窓会長と出版元の信教印刷社長との間で出版契約が交わされました。

- 卒業生名簿刊行会
- 会長 佐野 昌男
- 副会長 古川・島田・中田同窓会副会長
- 監事 清水・丸山同窓会計監事
- 理事 同窓会理事全員
- 刊行委員会
- 委員長 久保同窓会幹事長
- 委員 同窓会幹事全員

新卒業生名簿刊行の概要
刊行予定 平成十一年九月
・体裁 B5判 前回に準じる
頒布予定価格 約五千元

おながい
お名前、住所等のより正確を期すため、個人調査票が郵送されます。ぜひ返送をお願いいたします。特に、会費未払の卒業生にはこの会報が届きませんので、お近くで刊行する旨を話題にしてください、広く情報提供をお願いします。

附属長野小跡地に記念公園

旧附属小学校の跡は教育学部のグラウンドとして整備された。その南東隅に、附属小学校・中学校・養護学校の同窓会やPTAによって記念碑が建てられた。ここには小学校のシンボルであった古木、正門の門柱、土俵や記念碑が集められ、卒業生の思いの地としてのミニ公園が完成した。

ご挨拶



教育学部長 漆戸邦夫

同窓会の皆様には、常日頃学部の教育・研究に對しまして、格段のご理解を賜り、多大なご支援ご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

学部の近況を二つほどご紹介し、ご挨拶に代えさせていただきます。

まず、国道四〇六号線の拡幅工事に伴うキャンパスの環境整備が終了し、四月二十二日その竣工記念式典と祝賀会を行いました。旧南校舎がグラウンドの南に移転し、近代的な五階建て自然科学棟が完成し、快適な環境で研究・教育が行われております。正門横にあった屋外五〇メートルのプールは体育館北側に、開閉可能な屋根付き二五メートル六コースの室内プールとして完成し、四月から十一月まで使えるようになりました。正門横から体育館の南側にかけて「いこいの広場」が完成し、みちがえるようにきれいになりました。また、附属長野小学校が、附属中学と附属養護学校のある南掘団地に、昨年三月に移転いたしました。その跡地を体育館だけ残し学部のグラウンドとして整備しました。グラウンドの南東隅に、附属小学校の子どもたちが大切にしていた、「しなのき」を移植し、附属三校跡地の記念碑を建立し公園としました。

の近況

次に、学部改革の状況であります。少子化現象が進行し、教員需要が大幅に減少しているため、昨年四月十五日小杉文部大臣は財政構造改革会議のヒアリングの場で、教員養成課程の入学定員を平成十年から三年間で、聖域なく、五〇〇〇人を削減する方針を示した。その第一陣として、本年度一〇大学で一二〇〇名余りの削減があり、本学部の平成八年度卒業生の教員採用率は、臨時採用者を含めて約六一％であり、(全国平均四三％)、全国ベスト三ですが、教員を目指して入学した学生の四〇％近くは、教員の採用枠が無いため教員になれません。本学においても、教員養成課程の入学定員を適正規模に縮小することはやむをえないと判断し、現行の教員養成課程(幼稚園、小学校、中学校、養護学校)の入学定員二八〇名を五〇名削減する予定であります。それとともに、教育現場や社会から強い要望のある、スクールカウンセラーや生涯スポーツの指導者を養成する課程を新設したり、拡充したりする方向で、十一年度概算要求を進めております。同



開閉可能な屋根付き25mプール

窓会の皆様におかれましても、ご理解を賜り、ご指導いただけますようお願い申し上げます。ご

新しい臨床経験の試み—教育実習改革—

評議員・「教育実習見直し検討小委員会」

委員長 伊藤武廣

平成九年七月に教育職員養成審議会から「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」の第一次答申があり、「教職に関する科目」を段階に充実、教授方法として体験や演習を重視した教職課程の教育内容に関する具体的な改善方策が提言された。この実践的指導力の基礎を強固にする項目の中に、教育実習の充実があげられている。

このような状況の中で、より良い教育実習のあり方を求めて、附属学校園と学部が非常に熱心に、精力的に、率直な議論を重ねた。これまで本学部の教育実習は、三年次に附属学校園で六週間行ってきたが、実施方法と時期を大幅に変更し、平成十年からは三年次の八月中旬から九月中旬にかけて四週間の基礎実習、四年次の六月下旬から七月上旬にかけて二週間の応用実習を行う積み上げ方式を取り入れることにした。

生涯スポーツ課程が発足した平成七年度の学部カリキュラムには、「臨床経験」という新たな枠組みが設定された。その授業科目として「教育実習」「教育実習事前・事後指導」に加えて、平成八年度から「教育参加」が開設された。これは附属松本学校園の全面的な協力のもとに、一年次生が附属学校園等での教育活動に参加するものである。また、附属長野校においては平成九年度から教育実習を終えた四年次生を「教育ボランティア」として受け入れ、様々な学校行事に参加する

教育学部

場を提供していただいている。したがって、これからの数年間は教育実習改革にともなう様々なハードルを越えていかなければならない。

就職戦線異状あり

学生・就職委員長 吉田 稔

全国上位の教員採用実績を誇ってきた本学部とはいえ、少子化に伴い教員採用が年々狭まり、就職への道がますます厳しくなっている。

昨春は教員採用率六〇％で全国第三位であった。今春は卒業生約三〇〇人のうち教員就職率は一三九人の一、教員就職率は四三・六％、前年の一八九人採用率六〇％とを比較すると大幅減になっている(平成一〇年五月一日現在)。県教委の話によれば、来年度の採用予定者数は一七〇人で、今年度の採用実績二三〇人を六〇名も下回るとい

う。一方、民間企業等への就職状況はどうかといえば、これまた不況下のためか、必ずしも上向いているというわけではない。実際、企業や官庁などに就職した今春の卒業生は五人で、前年度よりも約一五人の減である。増えているのは、進路未定者であって、前年からほぼ倍増の八〇人にもなっている。卒業生の約四分の一近くが進路未定者(臨探待ちを含めて)という状況にあるとい

ただ、その試みは「教育現場が難しい問題を抱えていることを承知しながらも、教員志望の学生が以前と変わらず多い」という現実をふまえてなされなくてはならないと考えている。

それにしても、税金の一部を教育にまわし、学級の児童・生徒の数を欧米並の三〇人にすれば、前述した問題の多くは解決されることはたしかなのに。教師も親も政治の貧困が学生たちの願望をうち砕いていることをはっきり認識すべきであろう。

学部の新転任・転退職教官の紹介

- △平成十年度新転任教官▽
 - 藤田 英樹 先生(美術教育―彫刻)
 - 山崎 保寿 先生(学校教育―教育学)
 - 澁澤 文隆 先生(社会科教育―社会科教育)
 - 森山 潤 先生(技術教育―技術科教育)
 - 京都教育大学教育学部附属京都市中学校より転任
- △平成九年度転退職教官▽
 - 小俣 盛男 先生(社会科教育―社会科教育)
 - 昭和六十三年四月着任、停年退職
 - 山本 潔 先生(社会科教育―経済)
 - 平成五年四月着任、停年退職
 - 横田 通 先生(美術教育―彫刻)
 - 昭和四十一年四月着任、停年退職
 - 北澤 競 先生(技術教育―技術科教育)
 - 昭和四十一年四月着任、停年退職
 - 山崎 達朗 先生(英語教育―英語科教育)
 - 昭和六十二年八月着任、法政大学へ転出

平成九年度卒業生・修了生進路状況

平成一〇年五月一日現在

就職・進学先	学生の所属	就 職 者													現職	臨探	未定	合 計									
		教 員						教 員 外																			
		県 内			県 外			公 務	会 社	小 社	本 学 校	大 学	専 門 学 校	そ の 他													
		小 学 校	中 学 校	高 等 学 校 等	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校 等	員	員	員	教 育 学 部	他 学 科	大 学	他													
学 部	小学校教員養成課程	男女	2066	1308			3307	411	211	622	3909	3	12	1	16	7	4	5	16	10	11	9208					
	中学校教員養成課程	男女	2166	1131			3297	2	111	613	4167	10	1	11	5	3	2	1	11	15	11	8907					
	高等学校教員養成課程	男女	4102	2409			6511	61	321	111	1255	8006	3	22	2	27	12	7	5	2	2	25	22	18106			
	中学校教員養成課程	男女	83	711			184	4	1		54	238	1	3	4	2				2	4	6	398				
	小学校教員養成課程	男女	7	72			172	2	111		21	203	2	1	1	4	6	2		2	10	5	5	443			
	養護学校教員養成課程	男女	153	143			356	4	3	111	85	431	3	4	1	8	8	2		2	12	9	11	831			
	幼稚園教員養成課程	男女		111			111				111			1	1	1				1	1	1	4	1	41		
	幼稚園教員養成課程	男女		111			41				1	51				3	3	1		4	4	2	1	14	141		
	幼稚園教員養成課程	男女		22			52				1	62				4	4			5	3	3	18	2	182		
	幼稚園教員養成課程	男女	1				6			111		102	7	5		12	4			4	5	4	35	2	372		
計	男女	289	2103	1	2	5229	85	311	116	6328	4	15	2	21	11	5	5		21	15	17	1378					
計	男女	296	1910	4	4	6	6207	2	42	22	21	41	146	7623	9	16	5	30	15	8	1	2	3	29	27	20	1828
計	男女	5705	4024	5	6	11438	105	73	22	21	41	2612	13951	13	31	7	51	26	13	6	2	3	50	42	37	3195	
大学院	教育学	男女	21	52			83				83		2		2				2	13			25	3	1	253	
	研究科	男女	1	2			3				92		1	1					32	3	3	4	4	20	2	22	
	計	男女	31	72	1	4	111	165	1		1	175		2	1	3			53	16	4	5	4	45	5	45	
合 計	男女	3000	2613	1	3	6025	85	311	116	7100	4	17	2	23	11	5	7		23	13	15	17	14	162	3	1	1623
計	男女	3066	2110	5	7	7018	2	52	22	21	41	1566	8525	9	16	6	31	15	8	42	2	3	32	3	27	24	2025
計	男女	6006	4786	6	10	13044	105	83	22	21	41	2612	15666	13	33	8		26	13	113	2	3	16			36456	

(注) 1. ()は臨探で内数、○は外国人留学生で内数 2. 9月卒業生を除く

教員就職率(学部) 43.6%

会員

の

声

開かれた学校づくりへ

更埴(倉小) 徳永英夫



懇親会を盛りあげていただいた 結沢美久会員

今年度使用の『教務手帳』の七曜表には、平成十一年―一九九九年と西歴年数が記入され、次頁には、平成十二年―二〇〇〇年の数が記入されている。

世紀末を迎え、変革の時代への感を強めて学校現場の対応の課題が大きくクローズアップされてきている。

21世紀へ向けて、新しい時代の教育への「第三次教育改革」の具体化が、「生涯教育システムに組み込まれた学校教育」を展望しての「開かれた学校づくり」であり、「異質なものととも共存できる生きる力」として、学校でどんな花を咲かせるかであると、重点化しつゝある。

そんな中、冬季長野オリンピック・パラリンピックで体験し学び合えた「ふるさと地球」「生きる勇気をありがとう。」の共感、本校にとって「大きな財産・エネルギーとなりつゝある。

児童会のボランティア活動から「ネパールへ木を植えよう。」の取り組みが、留学生のヤシヨダ

さんとの交流からハンの木の記念植樹へと結び、又、福祉施設科野の宿への車椅子のプレゼントにと結んだ。そして、地域に根ざした学習の視点から、五年生の家庭科で包丁名人を目ざして、ホテルのコック長さんにT・Tで登場していただき、さらに、町の人材バンクとの連携や、町在住の教会の牧師夫人の「お国のお話」等々動き出している。

そして、今年度の最大の課題として、校内検討委員会の提言から、「授業参観の地域への公開」を具現化の日程に入れつつある。このことが、何より、子どもたちの生きる力に結ぶよう、縦糸・横糸の織り具合を心するように教師のあり方にこそその思いである。そんな中、今年度、信州大学大学院修了の先生の本校でのリードぶりに期待をふくらませている。

美術科同窓会の紹介

長野(宇井小) 小林了治

若い頃、先輩から『長野師範や信大教育学部は県下の教育現場が同窓会みたいなものだ。』という話を聞いたことがあったが、大学院設置のためもあって教育学部全体の同窓会が出来て、充実発展していることは、今回地区理事をやらせていただいたて知り、大変喜ばしいことである。

ところで、私たちの美術科同窓会は二十年も前の昭和四十四年に発足した。初代会長は田代和義氏であり、以後、毎年、長野と松本で交替に総会を開いている。

五十年五月三日には、長年ご指導いただいた石川泰男先生、続いて五十一年には彫刻の田原幸三先生の教授退官記念パーティー。五十五年には『美術科三十周年記念誌』を、六代会長の山本秀

麿氏の時に刊行した。今日まで、島田美成先生、樋口哲先生の退官記念パーティーも開き、関谷俊行先生の時は『記念論文集』も刊行した。今年度は彫刻の横田通先生の会を計画している。毎年、一月五日と決めて総会を開き、会長挨拶(現在の会長は上田第一中学校長の宮下俣實氏)、恩師や学部の先生の来賓挨拶・紹介、議長選出、会務・会計報告、事業計画、予算案等を協議し、先輩を招待しての記念講演、記念撮影、新年宴会と、約三十から四十名位ですが、楽しくやっています。



退官にあたって

前幹事長 北澤 競

私は戦後間もない昭和二十二年に、長野県師範学校予科に入學した。二十四年には信州大学教育学部が開學され、私は三十年卒業の第三期生である。十一年の中学校教師を経て四十一年に助手として学部に着任し、今年三月に定年退職をした。

半世紀にわたる学部の歩みには、思いの尽きないものがある。予科入学当初は、戦後の学園民主化闘争と肅学事件の最中であり、また助手として着任した四十年代初期は、全国的な大学紛争の渦中であって、特に大学紛争は、私の教官としての最初の試練であった。

母校へ寄せる思いは、何人も変わるものではない。時折拝見する「学窓―そして三十年」の第一期生記念誌に秘められる愛慕と情熱の念には、ひたすら敬服するのみである。同窓会は、この第一期生のご尽力によって昭和六十二年に設立された。私も学部在籍の一員として、微力ながらも会計係や幹事長を勤めて今日を迎えた。多少なりともお役に立てたかと感謝している。

学部は当初の小学校教育科・中学校教育科(後の課程)から、養護学校教員養成課程・幼稚園教員養成課程の設置を経て、平成三年には教育学研究科修士課程の設置と発展の一路を辿った。しかし今日少子化時代を迎えて、生涯スポーツ課程設置等の改組を進めている。このことは、時あたかも中教審が、子供の教育を家庭や社会機構の持つ機能の総合的な視野で進めるべきとを提言するに及んで、新しい時代へ対応する学部創造の積極的な施策の一環と考えている。今後学部は、高齢化や生涯学習・情報化・国際化等のキーワードに添

って、教員養成を中核としながらも、広角的な指導者養成機関としての役割を果たすことになるだろう。地域に根ざし、地域に信頼され、世界へ発信する学部創造のために、同窓会も支援の手を惜しんではなるまい。長年にわたる同窓会会員として、また学部教官としてのご交情に、重ねて感謝する次第である。

研究助成海外派遣学生便り

アメリカ留学近況報告

松橋 静香

私の通うユタ大学のキャンパスを覆っていた雪も少しずつ溶け始め、春の兆しが見えてきました。こちらに留学して早くも六ヶ月が過ぎようとしています。新しい異国の地での生活は思っていた以上に大変で、辛い経験もたくさんしてきました。しかし、限られた言語能力でも他人に自分の気持ちを伝えられ理解しあえた時の喜びは、辛かった経験を忘れさせる程おきなものでした。大学での勉強はとても興味深いもので、授業形式の違い(日本の大学との)に当惑しつつも、世界的



正門横の石碑と解説板

視野から様々なことを学べていることに大変満足しています。

春休みにユタ大学が企画したホームレスの人達に食事を配ったり、交流を図ったりするプロジェクトに参加しました。大学周辺では見かけないアメリカの抱える様々な問題を実感したと同時に、それらの問題は日本を含めた世界中に存在していることも認識しなければならぬと思いました。

こちらで勉強する機会を与えてくださった私の母校信州大学に感謝すると共に、残り少ないこちらでの生活を悔いのないように過ごしていきたいと思えます。

三月三十日

石碑公園の完成

学部整備の一環として教育学部正門の右に長野県教育界や師範学校に大きな功績のあった能勢 栄・正木直太郎・浅井 洌・浅岡 一氏の頌徳碑が整備され、小林輝行前学部長による解説板が立てられた。解説の概要はつぎのようである。

能勢 栄校長頌徳碑
第二代長野師範学校長(明治一五〇一八)、欧米の進歩主義的精神をもって近代教育の普及に尽力、長野県師範学校や教育界発展の礎石を築いた。正木直太郎校長頌徳碑

第五代長野県尋常師範学校長(明治二六〇三二)、七年間にわたり教育界や師範学校の興隆に功績。
浅井 洌教諭頌徳碑

長野県尋常師範学校教諭(明治一九〇大正一五)、「信濃の国」の作詞者として県民に知られる。浅岡 一校長頌徳碑

第四代長野尋常師範学校長(明治一九〇二六)、八年間にわたり教育界や師範学校の興隆に尽力。

信州大学教育学部同窓会

第十一回通常総会(通知)

日時

平成10年8月11日(火)

午前10時より

会場

長野市岡田町「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事

第一号議案 平成9年度事業報告、収入・支出決算及び財産目録の承認について

第二号議案 平成10年度事業計画(案)及び収入・支出予算(案)の承認について

6. 来賓祝辞
7. 閉会宣言

記念講演会: 11時15分より

懇親会: 13時より

記念講演(一般公開)

「なぜ長野冬季五輪を招致したか」

前NAOC参与 鷹野春彦



高校時代からこの年になるまで、「教育ってなに?」と、常に自分自身と対峙(じ)してきた。私たち戦中派も教育の犠牲者だったと思うからだ。小学校二年

に第二次世界大戦が始まり、鬼畜米英をたたき込まれ、終戦になった途端、同じ先生から民主主義

の到来とかで、教科書にシミを塗らされた。

これでもうやく進学出来ると、希望に胸をふくらませたものの、南佐久実(現小海高)に普通科を新設する県教委の方針で、八千穂村から以南の町村は、強制的に野沢北を断念させられた。その厳しい規制もたった三年でうやむや。「なぜ野沢北へ行かなかったんですか」。社会の有名校指向の根深さに辟易したものだ。長野県教育を反面教師に、自己表現が出来るスポーツで、目標にトライ、受験一辺倒の没個性教育が子供たちの希望の芽を摘む愚かさを実証しよう。それが中央メディアからも「ドンキホーテ」と、あざ笑われた長野冬季五輪招致実現だった。

△プロフィール▽

一九五六年三月 中央大学法学部卒業 在学中

◎事務局だより

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費五〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いします。

「スポーツ山脈」「あの人はいま」

同大アイスホッケー部で一年からレギュラー、四年に主将。主な戦績は全日本学生選手権準優勝、日大東大中大三大学対抗四連勝 五六年四月 信濃毎日新聞入社 35年余スポーツ記者として七八年長野国体、九八年長野冬季五輪招致を計画、実現 九一年 スポーツ面で二年間百十六人を連載した信州の「スポーツ山脈」で、ミズノスポーツライター賞受賞 九二年四月 信濃毎日新聞社定年退職 同年四月 NAO C事務局参与 九八年三月 NAO C 退任 信州大学非常勤講師

△おもな著書▽

- ・ 会議日誌(平成九・十年度)
- ・ 平成九年十月二十五日 幹事会
- ・ 平成十年一月二十四日 理事会
- ・ 会議旅費支給について
- ・ 卒業生名簿の刊行について
- ・ 第十一回通常総会について
- ・ 会報十二号について
- ・ 同窓会の組織充実について
- ・ 三月八日 幹事会
- ・ 五月九日 幹事会
- ・ 五月二十三日 監査会・顧問役員の懇話会
- ・ 六月二十一日 理事会
- ・ 第十一回通常総会について
- ・ 総会提出議案書について